

2026年9月期 第2四半期（中間期） 決算説明資料

2026年5月15日

Circulate
the possibilities



株式会社アサカ理研

証券コード：5724

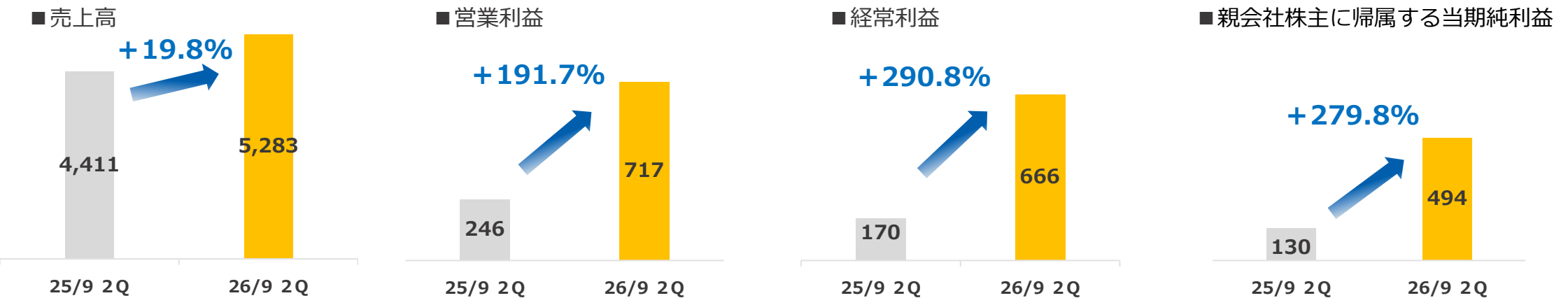
1. 2026年9月期 第2四半期 決算概況
2. LiB再生事業について

1. 2026年9月期 第2四半期 決算概況

2. LiB再生事業について

連結損益計算書(前年同期比較)

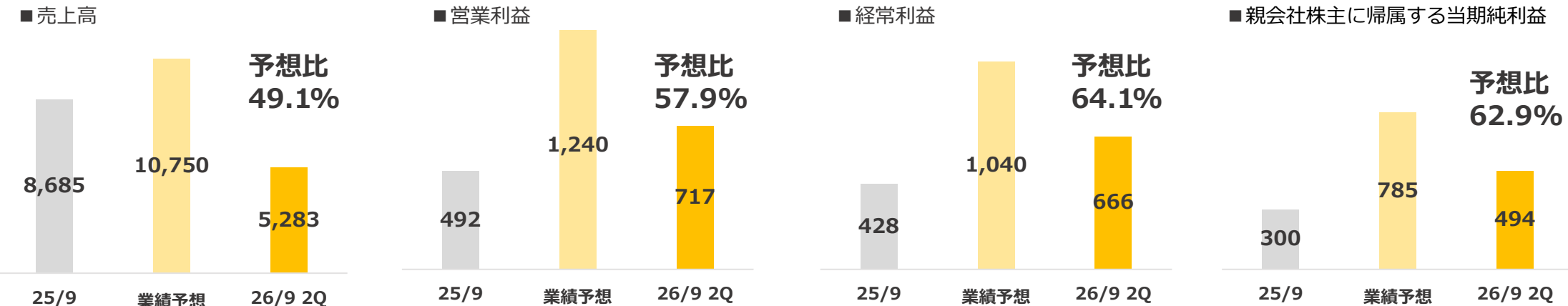
百万円(百万円未満切り捨て)	25/9期 2Q	26/9期 2Q	増減	増減率
売上高	4,411	5,283	871	+19.8%
営業利益	246	717	471	+191.7%
経常利益	170	666	495	+290.8%
(経常利益率)	3.9%	12.6%	8.7pt	-
親会社株主に帰属する当期純利益	130	494	363	+279.8%



- 金の相場上昇および取り扱い数量の増加により前年同期比で増収増益
- 金をお客様に返却する取引の増加により金地金販売が減少し、売上高の増加は限定的となった

連結損益計算書(業績予想比較)

百万円(百万円未満切り捨て)	通期業績予想 ※5/15上方修正後の数値	26/9期 2Q	予想比
売上高	10,750	5,283	49.1%
営業利益	1,240	717	57.9%
経常利益	1,040	666	64.1%
(経常利益率)	9.7%	12.6%	-
親会社株主に帰属する当期純利益	785	494	62.9%

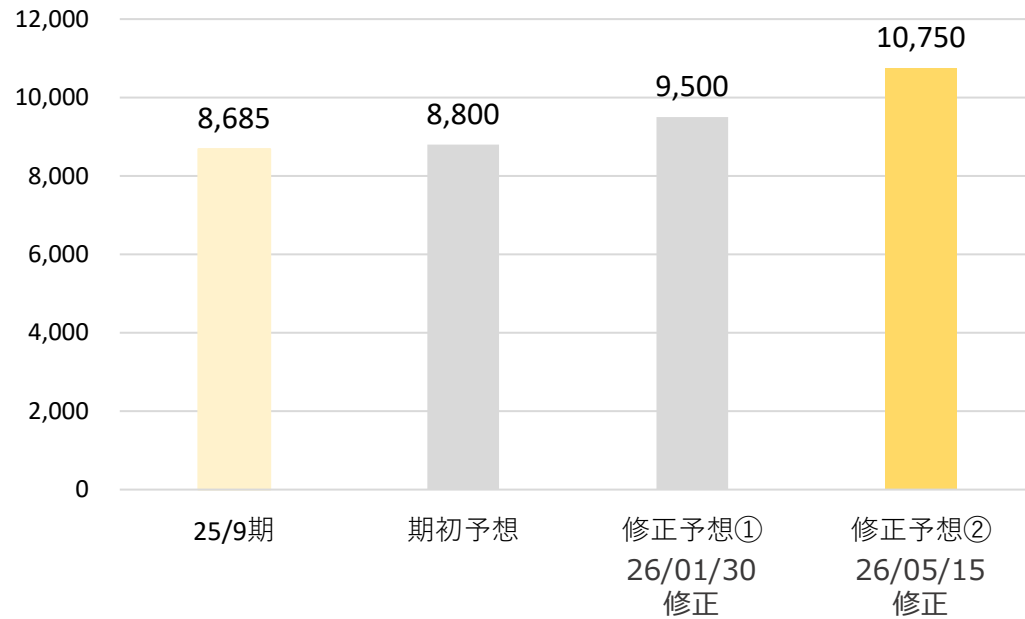


- 金の相場上昇により、2026年5月15日に業績予想を上方修正
- LiB再生事業の稼働開始に向けた整備や人員採用費等の一過性の費用増加を下期に計画
(下期の利益計上ペースが上期比で緩やかになる見込み)

(参考) 2026年9月期 業績予想値の推移

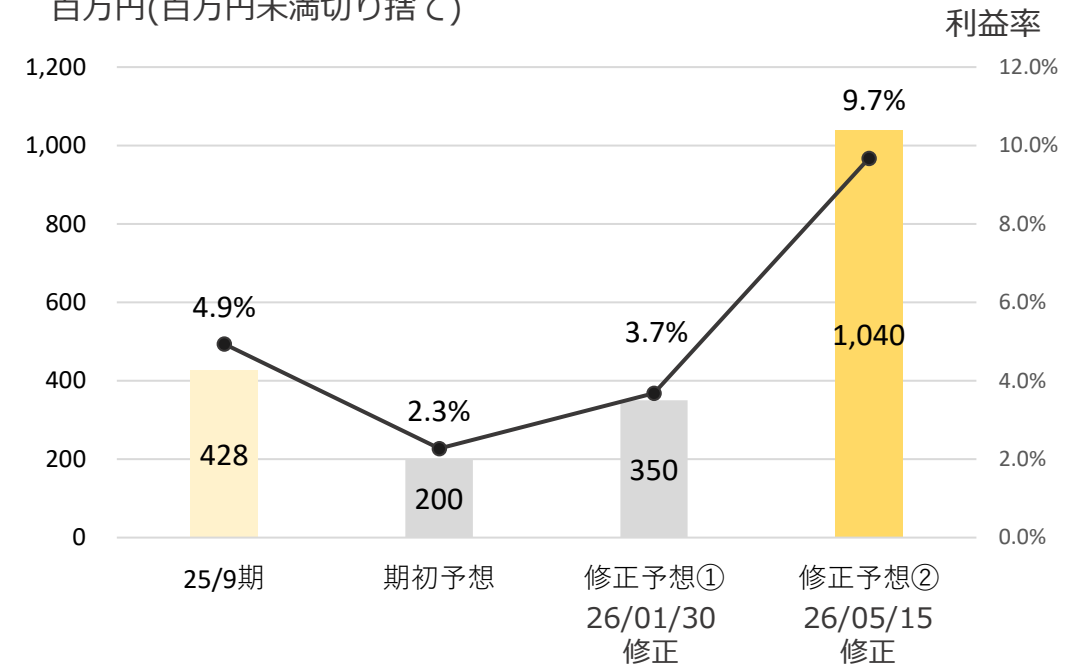
■ 売上高

百万円(百万円未満切り捨て)



■ 経常利益

百万円(百万円未満切り捨て)



- 期初の業績予想時点では増収減益予想であったが、足許の業績予想では増収増益予想に転換
- 金をお客様に返却する取引の増加により金地金販売が減少したことで、
売上高の増加は限定的となるも、金相場の上昇により利益額は大幅に上昇
- 利益額が大幅に上昇したことより、経常利益率が向上

セグメント別実績



百万円(百万円未満切り捨て)

※各セグメントの売上高についてはセグメント間取引を含んでおります

	25/9期 2Q	26/9期 2Q	増減
貴金属 事業	売上高	3,713	4,403 +18.6%
	セグメント利益	108	565 +420.1%
環境事業	売上高	576	741 +28.7%
	セグメント利益	23	64 +177.5%
システム 事業	売上高	110	125 +14.3%
	セグメント利益	18	20 +13.3%

- + 金相場の上昇および取り扱い数量の増加により増収増益。
- + 金をお客様に返却する取引の増加により金地金販売が減少し、売上高の増加は限定的となった。

- + 銅相場の上昇および販売数量の増加により増収増益。

- + 品質管理システムの売上増加により増収増益。

連結貸借対照表

百万円(百万円未満切り捨て)

	25年9月末	26年3月末	増減	要因
資産合計	13,806	17,099	3,293	LiB再生事業に向けた借入による資産増加
流動資産合計	7,922	9,497	1,575	借入による現預金の増加、 製品・仕掛品評価額の上昇（金相場上昇に伴う）
固定資産合計	5,884	7,602	1,718	
有形固定資産	5,502	7,047	1,544	LiB再生事業の設備取得に伴う建設仮勘定の増加
無形固定資産	55	132	76	
その他	325	422	97	
負債合計	8,880	11,654	2,774	
流動負債	3,085	3,835	749	借入金地金の評価額の上昇（金相場上昇に伴う）
固定負債	5,795	7,819	2,024	長期借入金の増加(LiB再生事業設備投資資金)
純資産合計	4,925	5,445	519	
自己資本比率	35.39	31.65	▲3.74	有利子負債増加に伴う自己資本比率低下、
D/Eレシオ（負債資本倍率）	1.15	1.39	0.24	D/Eレシオ上昇

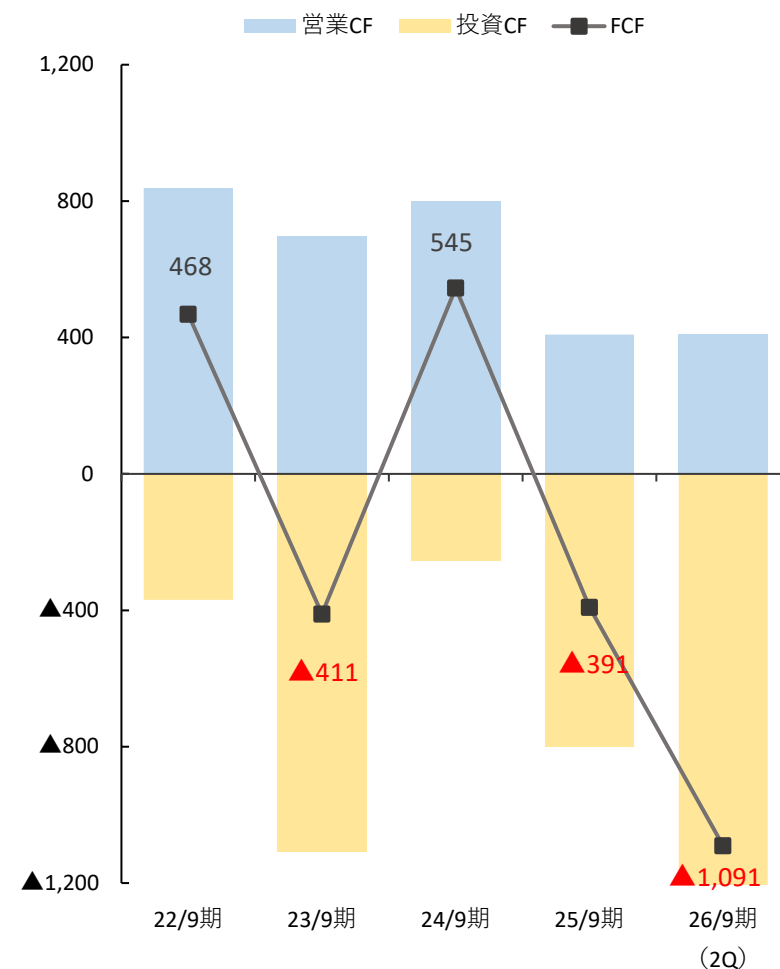
- 長期借入金60億円（2024年12月契約）の3回目（最終）の分割借入を25年11月に実行
- LiB再生事業の設備は稼働開始まで建設仮勘定として計上
- 金相場の上昇により製品・仕掛品在庫の評価額および借入金地金の評価額が上昇

連結キャッシュ・フロー計算書



百万円(百万円未満切り捨て)

	22/9期	23/9期	24/9期	25/9期	26/9期 (2Q)
営業活動によるCF	838	697	799	409	409
税前当期純利益	802	386	508	380	636
減価償却費	232	271	304	343	171
その他	▲196	39	▲13	▲313	▲399
投資活動によるCF	▲369	▲1,108	▲254	▲801	▲1,500
有形固定資産の取得	▲589	▲1,054	▲475	▲1,541	▲1,517
その他	219	▲53	220	739	17
財務活動によるCF	▲179	202	▲785	3,551	1,931
借入金借入・返済収支	▲120	438	▲711	3,697	1,998
その他	▲58	▲235	▲73	▲146	▲67
現金及び現金同等物	1,346	1,138	890	4,050	4,891
フリーCF	468	▲411	545	▲391	▲1,091



1. 2026年9月期 第2四半期 決算概況

2. LiB再生事業について

LiB (Lithium-ion Battery) 再生事業

脱炭素化への課題(ニーズ)

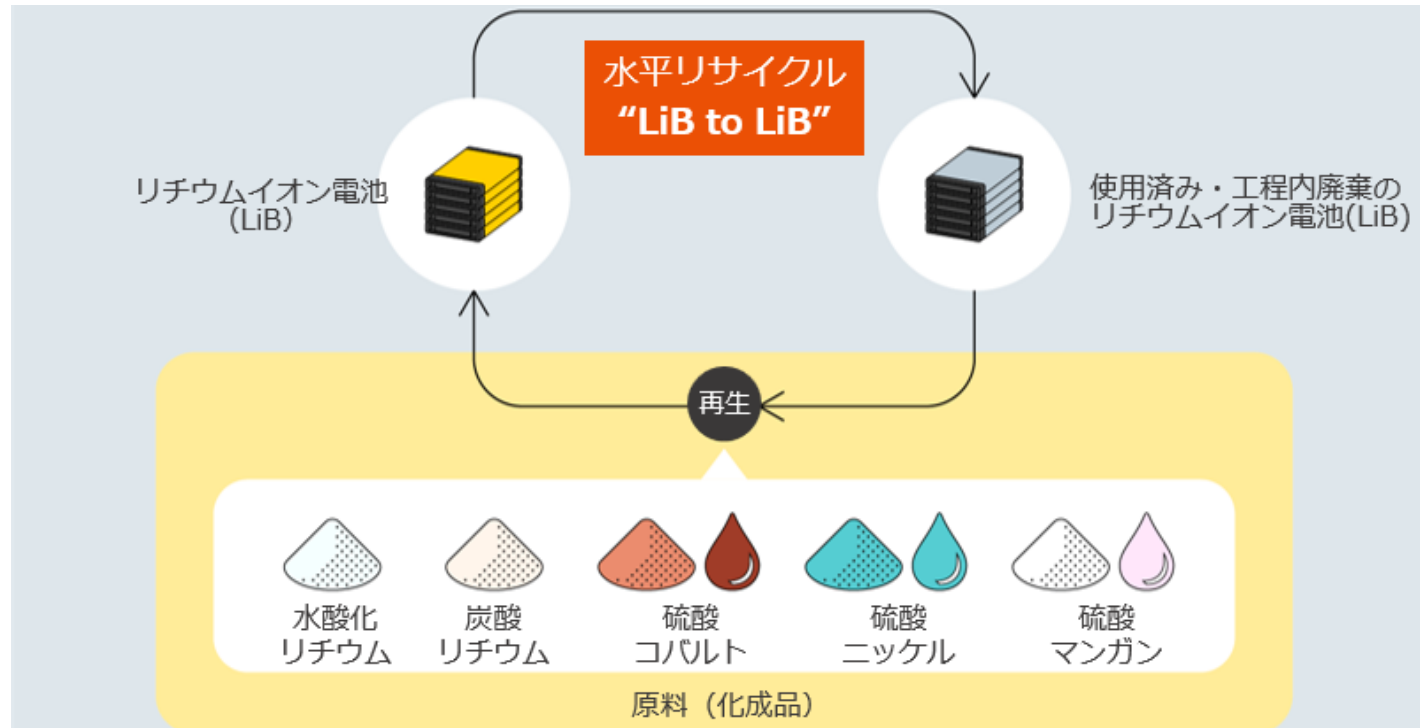
- LiBの原料であるレアメタルの供給懸念
- EVの廃棄に伴うレアメタル資源の消失



当社が提供する価値

- CO₂排出量の削減(脱炭素化)
- レアメタル資源枯渇の防止
- 鉱山開発による環境破壊の防止

◎ 電動車のLiBからレアメタルを抽出し再びLiBの原料として供給(LiB to LiB)



**“LiB to LiB”を実現し
脱炭素を目指す新規事業**



中期戦略

2028年～2035年



LiB工程廃材※にフォーカス

※LiB製造工程で発生する端材や不良品

- ◎ 集荷が比較的容易
- ◎ 早期に収益化が見込める

2030年LiB工程廃材見通し

当社
処理量

約1.5万台分

市場供給量

約10万～50万台(当社試算)

長期戦略

2035年以降



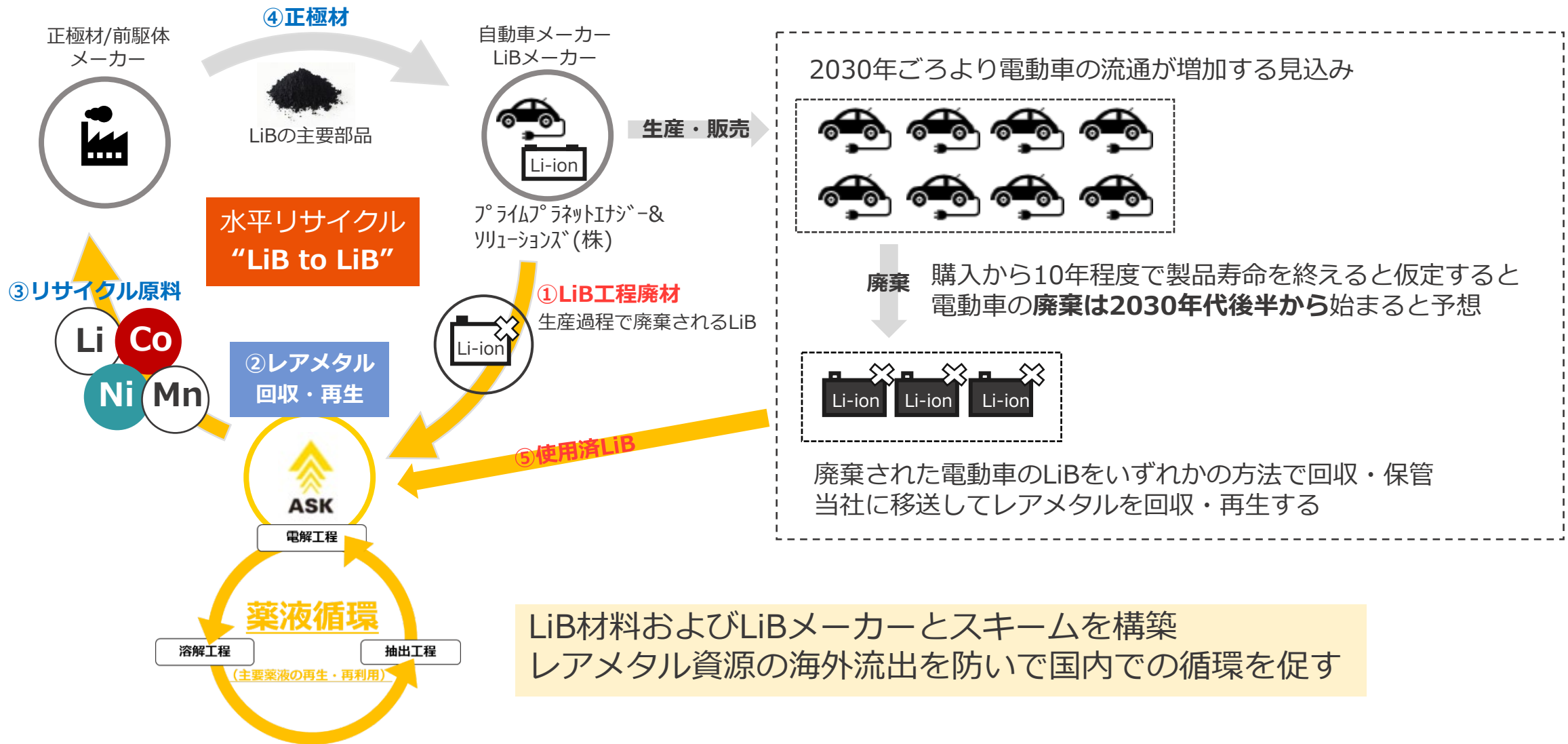
使用済みLiBとLiB工程廃材を平行処理

- △ 発生時期が早くても2030年代後半
- ◎ 数量はLiB工程廃材を大きく上回る



LiBトレンドの変化への対応

- ◎ LiBの走行距離増加(高容量化)に必要な水酸化Liの量産技術を保有



トピックス いわき工場新築建屋工事の進捗

当社いわき工場でLiB再生事業の量産プラント建設が進んでいます。



2026年2月上旬撮影

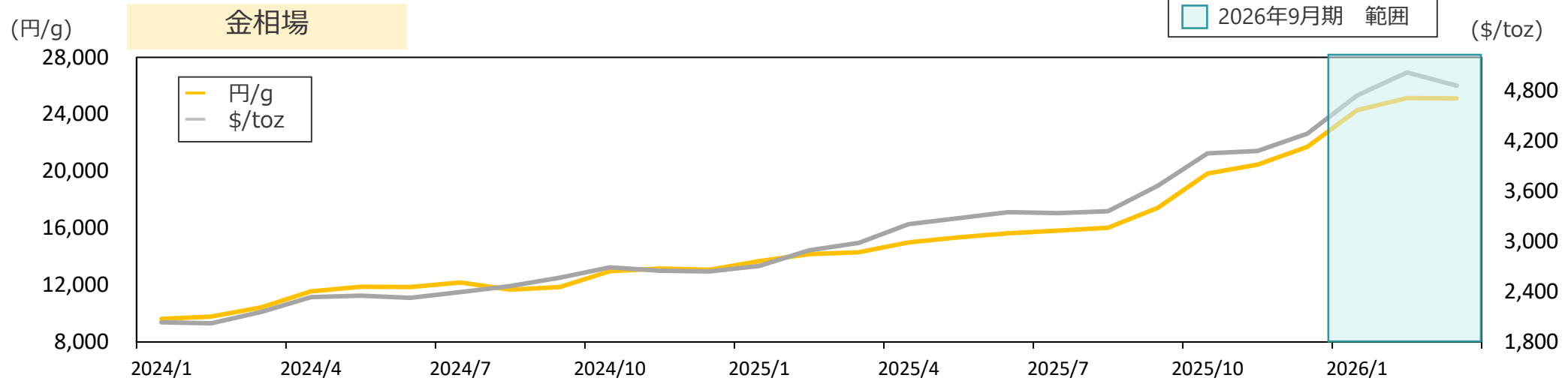


2026年4月下旬撮影

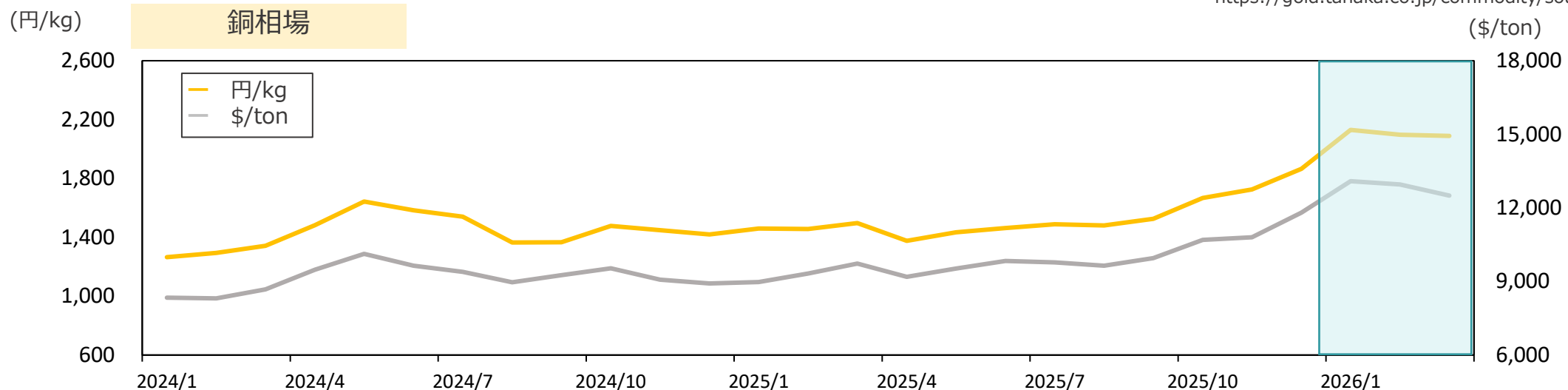
LiB再生事業は既存建屋の増築と専用建屋の新築により、量産プラントを設ける計画です。基礎工事から建屋の建築工事に移行しつつあり、既存建屋への設備納入を進めております。工場竣工に向けプラントの整備が進捗しております。

Appendix

主力製品相場推移



出所：田中貴金属工業株式会社
<https://gold.tanaka.co.jp/commodity/souba/m-gold.php>



出所：一般社団法人日本電線工業会
<https://www.jcma2.jp/toukei/dou/index.html>

免責事項

- ✓ 本書には、当社および当社グループに関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により、実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- ✓ 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められる会計原則に従って表示されています。既に行っておりまして今後の見通しに関する発表につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- ✓ 本書はいかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付の申込みの勧誘（以下「勧誘行為」という）を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。



ASK

株式会社アサカ理研